

令和6年度

地域とともにある学校づくり

保谷第一小学校 1年生

コミュニティ・スクールの充実

西東京ふるさと探究学習

単元名： きせつとなかよし ふゆ
(活動名)

ねらい： 冬の特徴や春や夏、秋との違いを見つけ、自然の様子や季節の変化、冬の自然の不思議さに気づき、地域の人やみんなと楽しく関わりながら、自分の生活を楽しくしようとすることができる。

1年生は、生活科の学習で6月、11月、2月と屋敷林に行き、季節の変化や自然の様子を観察したり、ボランティアの方々と触れ合ったりする活動を行ってきました。今回は、2月に実施した様子を紹介します。

「ふきのとうってなあに？」
「春が来たことを教えてくれる植物。ふきは葉、ふきのとうは花の蕾のこと。この後、どんどん伸びて花を咲かせるよ。ふきのとうは食べられるんだよ。天ぷらや味噌をつけるとおいしいよ。」と教えていただきました。



「シモバシラ！？霜柱！？」
「シモバシラ」といえば、2月に地面で見られた霜柱を思い出しますが、野草園には、植物のシモバシラが見られるそうです。残念ながら屋敷林に行った日は、温かくて見られませんでした。ボランティアの方々が1月に見られたシモバシラの写真を撮影して掲示してくださっていました。



「2月は冬だから花はないかも…」と心配していた子どもたちでしたが、白やピンクの梅の花やフクジュソウ、スイセン、ツバキなど、たくさん見つけることができました。



「チャノミを見つけたよ！」
お茶の葉になる木の近くには、茶の実が落ちていました。1つの種子の中に、5粒くらい入っていることもあるそうです。

まとめ コラム

子どもたちにとって多くの発見や学びがあった3回の校外学習でした。季節による自然の変化に気付くだけでなく、地域のボランティアの方々との関わりを通して、地域について知るきっかけにもなりました。これからも四季に合った楽しみ方を見つけながら、地域を大切にしたいという思いをもち続けてほしいです。